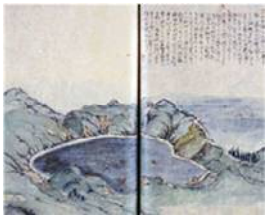
平成 25 年度秋田県中山間ふるさと・水と土フォーラム

2013
語り部交流会 in あきた

水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神

【実施報告書】



平成 25 年 10 月 10 日（木）

男 鹿 市 民 文 化 会 館

プログラム

１　あいさつ　13:00～13:10
　秋田県農林水産部次長　難波 和聡
　前農林水産省農村振興局次長　林田 直樹

２　基調講演　13:10～13:45
　菅江真澄が愛した『男鹿』の農業・農村
　　あきた森づくり活動サポートセンター所長　菅原 徳蔵

３　語　　り　13:45～14:40
　『語り』を通して知る農村風景の『継承』
　　語り部・かたりすと　平野 啓子

（　休　　憩　）　14:40～14:50

４　語りフォーラム　14:50～15:40
　水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神（こころ）
　　コーディネーター：平野 啓子
　　パネリスト：渡部 幸男（男鹿市長）
　　：安藤 伸一（秋田魁新報社男鹿支局長）
　　：林田 直樹
　　：菅原 徳蔵

５　地域伝統芸能　15:40～16:00
　「なまはげ太鼓」
　　なまはげトラディション of oga spa 恩荷（おんが）

※　会場内では「農の生け花展」、「農地・水保全活動パネル展」、農産物の直売のほか、菅江真澄の見た風景を巡る「現地見学会」も同時開催

主　催：秋田県
共　催：あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議
協　力：平野啓子（「語り部交流会」企画・開催指導）
後　援：農林水産省東北農政局
　　男鹿市、男鹿市教育委員会
　　秋田県土地改良事業団体連合会
　　秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会

2013 語り部交流会 in あきた

平成 25 年 10 月 10 日(木)、「語り部」として全国各地で活躍されている平野啓子氏をお招きし、男鹿市において「2013 語り部交流会 in あきた」を開催したところ、県や市町村、農地・水協議会や土地改良区などの関係者、及び一般の方など約５００名の参加となりました。

「語り部交流会」は、全国を舞台に「語り部・かたりすと」としてご活躍されている平野啓子氏と農林水産省の全面的な協力を得て、平成２３年度から全国に先駆けて開催しているもので、農業や農村に関わる歴史や文化を語り伝えることで、昔から受け継がれてきた農村に宿る精神を再確認し、これを将来につなげていこうというものです。

〔コンセプト〕

男鹿地域は、多様で豊かな自然環境、自然に適応して営まれてきた農林漁業、それらの自然や生業の中で育まれてきた歴史、文化、食、景観などの数多くの地域資源が継承されています。

今から約２００年前、日本の民俗学の祖と評される「菅江真澄」は、男鹿地域の多様で豊かな地域資源に着目し、紀行文、スケッチ、和歌等により、それを後世に語り伝えようと「男鹿五風」を書き記しています。

今回は、男鹿の『すばらしい農村風景』にスポットを当て、古から現在まで受け継がれてきた背景にある先人たちの足跡や現在の取組などを、「語り」を通して見つめ直すことにより、農村に宿り続ける「継承の精神(こころ)」を再確認し、様々な取組に活かし、発信していくことで、地域活力の向上や秋田の農村振興につなげていくことができないかを考えます。

基調講演

あきた森づくりサポートセンター所長の菅原徳蔵氏は、男鹿地域における新田開発や水源の確保にかかわる先人達の功績や、地域で古くから継承されてきた伝統文化「なまはげ」や棚田などの農村風景を、江戸時代の紀行家・菅江真澄が記した紀行文やスケッチ、自ら撮影した写真などを紹介しながら、「菅江真澄の愛した『男鹿』の農業・農村」と題する講演を行いました。

〔要旨〕

男鹿の農村のように手入れの行き届いた勤勉な風景を見ていると心が温かくなり、なまはげなどの行事を重ね合わせると田んぼが神聖な風景に見えてくる。このような地が耕作放棄地にならずに手入れされている裏には、なまけものを戒めるなまはげのパワーがいきているのではないか。農地・水保全など相互扶助の精神が生きていて、自然と人間と文化が共存しているこの地域をずっと大切にしていきたい。

今年は大型観光キャンペーンである秋田デスティネーションキャンペーン、来年には国民文化祭が控えており、2020 年には東京でオリンピックが開かれる。外国の方々も沢山訪れるこの機会にこそ、男鹿の農村風景のような文化的風景を観光文化振興の新しい柱に据えて、色々な方々に PR してほしい。そうすることによって後継者育成にも繋がる。

語り

元ＮＨＫキャスターで語り部・かたりすとの平野啓子氏は、「『語り』を通して知る農村風景の『継承』」と題し、万葉集や菅江真澄の紀行文・和歌に見る日本の「農村風景」を、男鹿の風景とともに紹介。また、学習の一環として参加してくれた船川第一小学校の児童たちに、学校の教科書にも取り上げられている「稲むらの火」の語りを行いました。

〔要旨〕

真澄の紀行文の冒頭に出てくる「ほに（はさ掛け）」。昭和 30～40 年頃は稲刈り後の田んぼにごく当たり前に見られていた。そういった風景を作り出しているのは、農の営みが継続されてきた証であり、また、農地や水路を保全し続けてきた証でもある。私たちの身近には、普段当たり前のように田んぼや畑・水路やため池などがあるけれども、その誕生の背景がそれに関わった先人の苦労の歴史を学んで語り伝え、そしてそれらを保全する活動に取り組むことが、大きな心の支えとなり、地域の絆や、今後の活動の継続に向けた結束を強める原動力になると確信している。

そして、実はほになどの風景が残っていることにより、「こういう風景があるから『稲むらの火』っていう物語が生まれたんだ」と今、日本の中で文化と呼ばれている色々なものを説得するためのすばらしい材料、本物の資料になる。

これから未来を担う子供たち、外国から来る人たちに、日本の文化というものを伝えるときに「この風景があるからこの文化が生まれたんだ」と分かる元々の風景を残しておくということが、日本の文化の支えになる。そのためには美しくすばらしい農村風景を農家の方々も農家以外の方も大人も子供もみんな、一人一人が心から大切に思うようになることが、なによりも大事ではないかと思う。

語り部交流会 in あきた

語りフォーラム

語りフォーラムでは、「水と土、そのすばらしい農村風景を『継承』する精神（こころ）」をテーマに、平野啓子氏をコーディネーターに、地元を代表して渡部男鹿市長、秋田魁新報社の安藤男鹿支局長、基調講演を行った菅原氏、前農林水産省農村振興局次長の林田氏がパネラーとなり、様々な立場や観点からの意見を交わしました。

〔要旨〕

男鹿市長の渡部幸男氏は、安全寺、真山地区など男鹿市内９組織の農地・水保全活動や一ノ目潟ため池、滝の頭湧水の保全・管理について紹介。男鹿市民にとって、男鹿市の良さを再認識する良い機会をいただき、農業のみならず、教育的な面もあり感謝している。地域の人が守っている大事な風景を引き継ぐ精神を次世代へ繋いでいきたい。

秋田魁新報社男鹿支局長の安藤伸一氏は、滝の頭湧水と渡部斧松の農業用水と農地開発、内田金三郎氏らによる一ノ目潟の隧道掘削など、先人の苦労やその足跡など、これまでの取材記事や企画について、そのねらいや反響、取材を通じて感じたことなどを紹介。北浦地区の農業用水・飲料水となっている一ノ目潟ため池の隧道は、江戸時代の内田氏、明治時代の田沼氏によって開発され、現在、県において改修工事が行われている。先人の残したこの大切な資産について、当時の記録をしっかりと調査し、資料として残すなど検証してほしい、と男鹿市に要望した。

〔要旨〕

林田前次長は、ドイツの詩人ゲーテ（1749～1832）が書いた「ファウスト」を紹介。主人公のファウストが最後で最高の仕事として、沼沢地のはけ口を作る干拓事業を行った。潮が強引に侵入しようと噛みついても協同の精神により穴を塞ごうと人が集まる。この精神に身を捧げ、自由も生活も享受できる人間といえる。生涯の痕跡は行く千代を経ても滅びまいとした。これは、ゲーテ自身の持論であり、「自由も安楽な生活も、人から与えられたものとしては価値がない。自分の努力によって作り出すべきである。」としており、今日を生きている自分自身にも問わなければいけない課題である。

最後にコーディネーターの平野氏が、『いつも当たり前のようにしている農村風景の継承』このためにはいかに多くの方々がそのおおもとになっている農地や水路などに関心を持って、そしてその保全に何らかの関わりを持っていけるかということが大事になってくる。この語り部交流会が、農業農村の大切さを多くの方が見つめ直す機会となり、多くの方々に地域の取組への理解と協力が得られる一つのきっかけとなればは大変うれしいこと、とまとめた。

伝統芸能

最後に、地元・男鹿市の有志で設立したなまはげ太鼓団体「恩荷」による伝統芸能「なまはげ太鼓」を鑑賞しました。男鹿半島の風土や自然をモチーフとしたオリジナル曲を披露し、なまはげの迫力と和太鼓の勇壮さに、会場は拍手の渦に包まれました。

農の生け花展

農地・水保全活動パネル展

現地見学会

語り部交流会に併せ、菅江真澄が愛した男鹿の農村風景を巡る「現地見学会」を開催しました。

秋田県庁前を出発した参加者４０名は、男鹿市で滝の頭湧水、北浦地区の八望台、安全寺の棚田などを見学。真澄の描いたスケッチと見比べながら、農村風景を残す大切さを学びました。

〔詳細〕

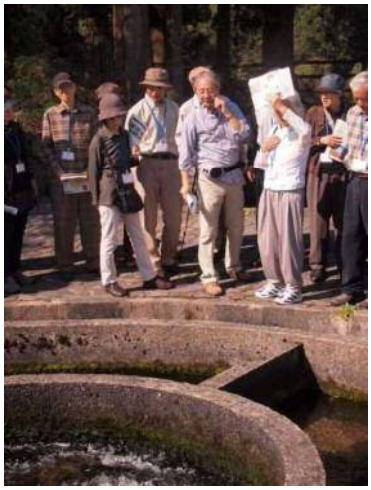
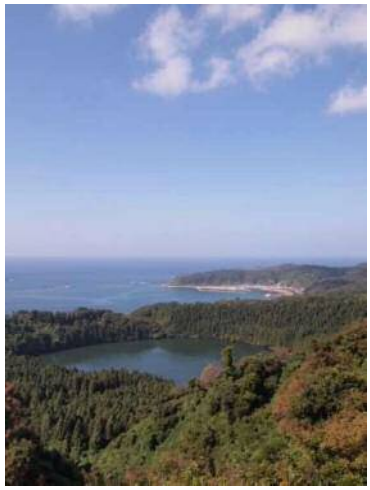
滝の頭湧水では、寒風山に降り注いだ雨水が浸透し、苔生した岩肌から轟音を発して湧き出す１日２万５千トンの湧水のほか、農業用水や上水に分岐する円形分水工を見学。

北浦地区の八望台では、一ノ目潟の隧道こそ見えませんでいたが、二ノ目潟や戸賀湾など日本海の海岸線など１８０度のパノラマビューを楽しみました。

男鹿観光の主要道路「なまはげロード」のなまはげ大橋から、男鹿三山（真山、本山、毛無山）を背景に、日本海まで続く棚田を見学。日本の原風景にカメラに収める人がたくさんいました。

行程中は、男鹿市菅江真澄研究会の天野会長にガイドをお願いし、随所に専門家ならではのお話をしていただきました。

その後、参加者は語り部交流会に参加した後、船川地区の大龍寺にも立ち寄り、美女伝説について住職から法話を聞いたあと、帰路につきました。

※写真上左：滝の頭湧水、同上中：同下流の円形分水工、同上右：八望台から見る二ノ目潟と戸賀湾

※写真下左：八望台、同下中：安全寺棚田を撮影する参加者、下右：大龍寺での記念撮影